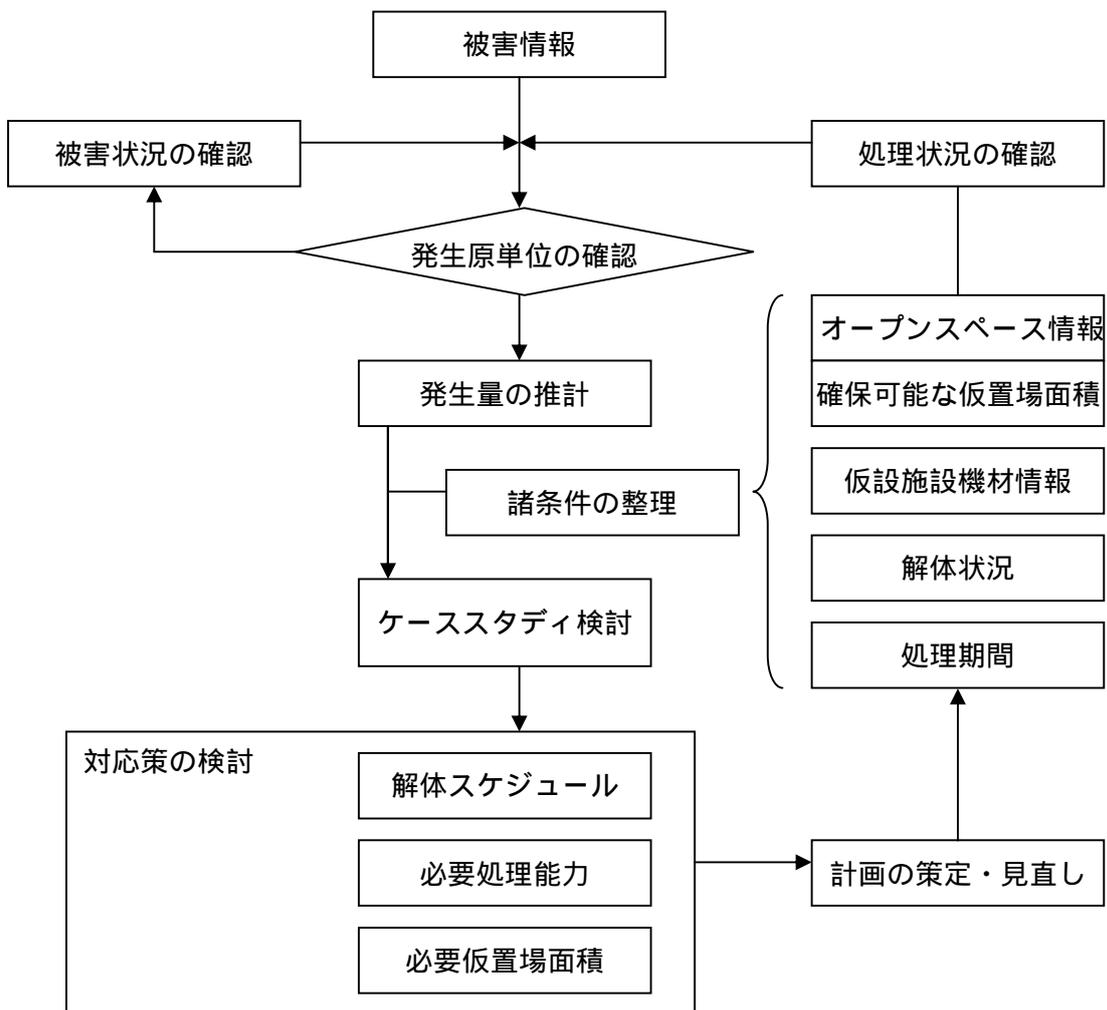


第6章 災害廃棄物発生量の推計

災害廃棄物発生量の推計は、被害情報から発生原単位を設定して下記に示すフローのように推計するものであるが、被害状況の確認状況や処理・処分の進行に伴う実績値等から、適時見直していくことが必要である。

大規模な災害であるほど災害発生直後には被害の全容がつかめないものであることから、あらかじめ震源地や規模に応じた発生量をシュミレーションしておくことも有効である。



出典：調布市災害廃棄物処理行動計画 平成 20 年 3 月 調布市環境部

倒壊建物や被災建物の解体廃棄物のほかに、陶磁器類やガラス類の破損、電化製品の故障や家具の破損に伴う不燃、粗大ごみが大量に発生することが予想される。

また、電気、ガス等のライフラインの復旧が遅れた場合、レトルト食品やインスタント食品、カセットガスボンベや電池といった、災害特有に発生するごみが通常の生活ごみに加えて排出される。